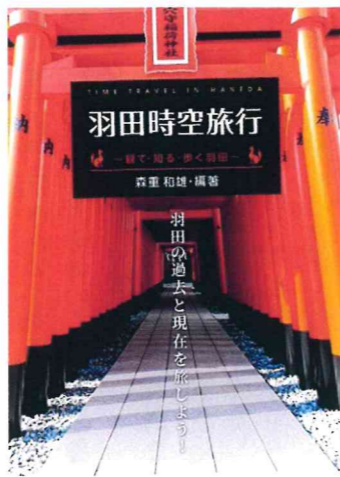


羽田時空旅行
 ～観て・知る・歩く羽田～
 森重 和雄 編著

羽田を知る、特別な一冊をご紹介します。その本のタイトルは「羽田時空旅行」～観て・知る・歩く羽田～です。こちらの本は羽田大鳥居町の村石裕さんが企画、作成をし、写真史研究者であり作家の森重和雄氏がまとめた本です。

村石裕さんは、保護司会や町会の役員などを務め、地域活動に貢献していらっしゃいます。また、古写真(明治・大正期)のコレクションでもあります。羽田の歴史を知る本はいくつかありますが、本書を読むことで羽田の歴史について新たな発見をすることができるといえます。さらに過去の歴史だけでなく、現在の羽田の街の姿を写真で紹介しています。



羽田の魅力再発見

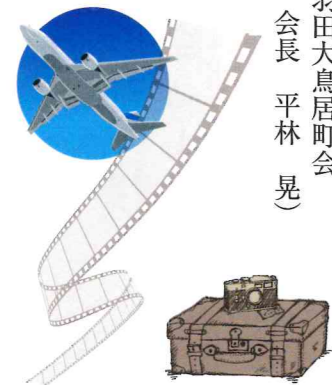
～羽田を知る本を紹介します～

これからこの本の魅力について紹介していきます。

現在の羽田空港のある場所にはかつて羽田江戸見町、羽田穴守町、羽田鈴木町があり、そこに穴守稲荷神社が鎮座していました。この地は国内有数の景勝地であり、穴守稲荷神社は川崎大師と肩を並べる程の賑わいでした。どれほどの賑わいだったのかについては、百年以上前の新聞記事や史料の記載を元に書かれています。また、穴守稲荷神社の参道にあった「時計台」について、これまでに全く語られてこなかった事実が本書に書かれています。是非読んでいただきたい内容です。

本書は、昨年の十一月に出版され、地域の各公共機関に寄贈されました。また、本書についての講演会や写真展などが企画されるなど、頒布に意欲的です。是非ご一読ください。

(羽田大鳥居町会)
 会長 平林 晃



地域PRに展示にフル稼働中

羽田地域力推進センター

「地域情報コーナー」

いつも大変お世話になっております。令和2年4月1日付で羽田特別出張所長に着任しました大竹と申します。今回、はばたき20にて僭越ながら挨拶の機会をいただきましたので、羽田地域力推進センター1階「地域情報コーナー」についてあらためてご紹介させていただきます。

開設当時から「ふれあい縁日」等のイベントの会場としても皆様にお越しいただいていたこのスペースですが、現在、コロナ禍において多くを集客しての催しが困難な状況となっております。そんな中でも、地域の活性化を図り、人と人との交流を後退させないための方策として、この空間を使ったPRや展示を展開する取組みが地域力推進羽田地区委員会を中心に進められています。

新たにデジタルサイネージ等の展示機器も町会連合会により配備され、SNSで募集した写真のスライドショーや広報映像の放映など、多様な企画を行うことが出来るようになりました。このたび、地域力推進羽田地区委員会に新たに「羽田の魅力PR分科会」が発足しました。様々な活動を通して地域の情報発信やPRはもちろんのこと多世代間交流、地域活動への参加促進や地域の担い手づくりといったことにもつながるような取組みも進めていく予定です。現在は各町会を紹介する手作りパンフレットなども作成中で、益々羽田の魅力が地域の皆様の手



2月1日～2月28日まで、地域情報コーナーで展示予定

地域をつなぐを担う

おおたラーメン子ども食堂

私は平成28年12月より、本羽田一丁目町の民生委員児童委員として羽田糶谷地域に関わらせていただき、平成30年4月に地域の子ども食堂を町会会館で開始して以来、子育て世代を中心に「おおたラーメン子ども食堂」としてボランティア団体を立ち上げ、ご賛同の皆さまと共に本羽田周辺地域にて活動を続け

により広く発信される舞台となること期待されます。

新たな企画の一つとしては、大田区立郷土博物館で12月まで開催された、羽田を中心とした郷土の風景を撮影する写真家として活躍した横山宗一郎氏の写真展「せんべい屋店主、大田を撮る」の出張展示を2月に予定しております。

今後も「羽田の魅力PR分科会」の躍動や「地域情報コーナー」の企画充実にご注目いただきながら、皆様も一緒に魅力発信の輪を広げていただければ幸いです。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(羽田特別出張所所長 大竹 豊和)

大田区は子ども食堂発祥の地で、平成24年蓮沼「気まぐれ八百屋だんだん」近藤博子さんが始めた活動で、今や全国に五千箇所、「子どもの貧困」「高齢者の健康づくり」「孤食対応」「子育て支援・虐待予防」にぎわいづくり・地域の活性化」といった趣旨のため、自然発生的に日本各地へと広がっている状況です。地域の多世代交流の場として、平時の繋がりがなくなり、非常時のセーフティネットの役割を担い、子ども食堂を通じて多くの人がちが未来をつくる社会活動に参加できるよう、様々な取り組みを行なっています。

「おおたラーメン子ども食堂」においても大田区福祉管理課や社会福祉協議会と連携して、食を通じて地域の居場所づくりをしています。

また食品ロスを削減するフードドライブ事業にも参加し、環境計画課の「食べきり応援団」として登録されています。現在のコロナ禍では一堂に会しての食事は休止し、お弁当や食材、衛生用品等の物資を配布する「フードパントリー」や、子ども達の学習支援や見守り活動を行っております。

年齢を問わず、長引く自粛生活で体力低下や精神的ストレスに加え、減給や離職のために経済的な打撃を受けている世帯も少なくありません。物資を受け取るだけでなく相談に訪れる方が多くあり、一時は食糧も活動費も仲間までもが不足したこともありました。そんな頃、活動内容を知った地元企業の皆様から、次々に食材やお菓子や衛生用品のご寄付、ボランティアのお申し出が舞い込んで

きました。沢山の助け舟に感涙しながら、あらためて「平時の繋がりと非常時のセーフティネット」の大切さを実感いたしました。渡る世間に鬼はなし。自らも地域の中で人と人とを繋ぐ役割を担い、誰も取りのこさない社会を目指すという活動意義のもと、先行き不透明な時代を乗り越えていきたいと思います。

益々の地域社会の幸福と発展を願い、一隅を照らす思いで頑張つてまいります。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(おおたラーメン子ども食堂代表 武井恵美子【本羽田二丁目町会】)

※令和3年10月12日の夜に岸田首相、野田少子化相の両氏が東京都大田区の「子ども食堂」を訪問されました。



おおたラーメン子ども食堂の様子

羽田空港トリビア49

◆頼りになるクルマ達(その2)◆

前回からのシリーズで「できればお世話になりたくないが、空港に無くてはならない頼りになるクルマ達」について紹介していきます。

今回ご紹介するのは「空港用化学消防車」です。ここ羽田空港には万一の航空機事故等に備え空港用化学消防車を6台配備しています(他にも照明車などの関係車両を6台配備)。この車両は、皆さんの地域で活躍する消防車とは、その大きさも形も随分と異なります。例えば、広大な空港には街中のようにきめ細かく消火栓がありませんので消火用の水を自分で運ぶ必要があります。何と1万リットル以上の水を積み(お風呂の水約50杯分)、これに薬剤などと合わせると、車両全体の総重量は40トンを超えます。この巨体で最速100Km/hで突っ走り、事故現場まで3分以内に到着することが求められています。操縦席の屋根にはタレットと呼ばれる放水銃があり、遠隔のコントローラで自在に方向を変え、エンジンなどの火元に向け泡消火剤を放射します。

また近年、HRET型という新型の車両が配備されました。これは、放水銃をマジックハンドのように柔軟に操ることができ、風の影響も受けにくく、ピンポイントで火元に接近することが可能です。また、銃の先端を針のように機体に突き刺すことができるため、機体内部の火災にも対応することができる優れたものです。



最新のHRET型 化学消防車

このように、優秀なクルマ達ではありますが、これらのクルマが活躍することが無いこそが私たちの最大の願いです。

(国土交通省東京空港事務所)

